

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892700093		
法人名	社会福祉法人 那珂の郷		
事業所名	グループホーム こはるの郷		
所在地	兵庫県多可郡多可町加美区大袋194-1		
自己評価作成日	令和4年9月1日	評価結果市町村受理日	令和4年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	令和4年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の自発性や主体性を重んじ生き生きとした生活が送れるように日頃から意識して支援をしております。今年度より、毎週日曜日におやつ作りの実施や3か月に1回の長谷川式スケールの実施、毎月ご家族様へ「お便り」を発行しており好評頂いております。その他、地域との交流として、認知症サポーター養成講座も実施しました。毎月開催の会議では、各職員の得た情報やご利用者様への思いなどを意見交換し情報共有を行いケアに繋げています。特に認知症の維持、改善に向けた取り組みとして、運動・音楽・学習療法など様々な角度からのアプローチの実施を行っており、各ご利用者様が元気に楽しく過ごされています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1ユニットの少人数のホームで、管理者を中心に職員のみとまりもよく定着が伺える。利用者の有する生活能力と、認知機能の維持改善に向け、家事参加や予防療法に努めている。それらの遂行のために、職員全員参加で会議体や日常業務中に関わらず、意見交換・研修に努めている。毎月「お便り」をお届けする等、家族とのつながりを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「のんびりとした暮らしと生きがいのある生活の提供」「地域とのつながりを大切にす る」毎月の話し合いにて情報の共有を図 っている	コロナ禍で地域との接点にが難しい中、個々 に得た情報などを出し合いケアに生かすと 共に、次の会議で評価し振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	コロナ禍で交流が困難な為、2カ月に1度地 域代表の方と情報の交換を行っている	町や区の広報誌で地域の動きや予定の把 握に努めている。代表の方と情報交換の機 会を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向け て活かしている	キャラバンメイトの登録を行い要請時に活 動を行っている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	取り組み状況について紙面で報告を行って おり、得たご意見を日々のケアへ繋げている	コロナ感染症の静まりの機会を狙って、1回 だけ開催できた。中止の際は運営状況等の 会議資料をお届けして対話に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当の方への情報をしっかり提供し アドバイスを頂き、日々のサービス提供へ 繋げている	運営推進会議に参加頂くと共に、研修会や 会議等で情報交換に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解 しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	毎月の会議で議題に挙げて身体拘束をしな いケアに取り組んでいる	おやつ作りや興味を示される行事など、健や かな生活支援に努めている。どうしても動き が少なく、足腰の弱りが気になる。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の実施や個人面談、会議等で話し合い振り返りを行っている	職員皆で協力し合う雰囲気が出来ている。ちょっとした声掛けで余裕を、有休活用等ストレス予防にも努めている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会などを実施し周知している	制度について職員の理解を図るとともに、家族からの相談に対応できるよう、役所等から情報収集に努めている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等には十分な時間をとり説明を行い、しっかり納得される様努めている	利用料の質問や、既入居者と本人との人間関係取れそうか等心配される家族もいる、親切に対応している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様に関しては来所時や運営推進会議への参加時に要望等をお聞きしており、ご利用者様からは日々の生活の中でのご意見等を反映できるようにしている	毎月「お便り」をお届けして近況を伝え、お声を聴くようにしている。最近は電話で情報交換することが多い。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個別に面談を実施している、その他日々の中で意見交換を行っている	定期的に管理者が個別に面談をしている。少人数の職場であり、日頃から何でも言いあえる関係づくりに努めている。定着している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者よりの報告等を受け状況を把握し整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別の力量を把握しレベルアップに向けた取り組みの情報提供等を行っている		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームによる連絡会を実施しており情報交換を行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談時に得た情報を他の職員と共有し入所後のケアに繋げている、また入所後も交流の機会を作り安心した生活環境づくりにも反映している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時に不安に思われていることなどをお聞きし安心してご利用して頂ける様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に思いを伺い、他のサービスも含めた対応を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に応じた家事など生活リハを行って頂き役割を作る事で生きがいに繋がる様に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様にとってのご家族様の影響力を理解して頂き協力関係を築けている		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけでなく、親類や知人等の面会もあり馴染みの関係が作れている、また再訪問しやすい雰囲気づくりに努めている	コロナがちょっと落ち着いた時期に、面会可能な案内をしたところ反応が良かった。機会づくり努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時の席の配置を考慮したり、趣味嗜好を把握し関係性を深めている、その他、利用者間に職員が入り、会話のきっかけを作るなど能力に応じた役割を実施して頂くようにしている		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に退所後すぐは様子を伺う等して相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話より情報収集を行い意向に沿えるように努めている、またご家族様等よりも話を伺いケアに繋げている	外出の制限でお墓参り等も出来ず、寂しさを感じるお姿を拝見し、電話で家族とお話頂くなど対応に努めた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報収集などもしっかり行い本人様にとっては生活の続きが出来る様に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段より状態の観察をしっかりと行う事で変化に気づき情報の共有が出来ている		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では会議等で話し合い、ご家族様とは面会時に情報交換を行い反映している	3ヶ月に1回カンファレンスを実施し定期的な見直しを行い、月1回か2回の通院時には、同行される家族に、かかりつけ医に気になる点などメモを託して介護計画に反映できるような意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録の中に小さな気づき等も記入する事で実践や介護計画にも活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様に関しては自発性を重んじて可能な限り対応できるよう努めている。その他についても、どうすれば出来るかを考え支援に努めている		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の理美容などを活用しながら生活範囲拡大を意識して支援を行っている		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には従来からのかかりつけ医を継続して頂いており、必要時は連携を取り適切な医療が受けれる様に支援を行っている	家族対応が無理な場合は、管理者・ケアマネ・リーダー・介護職員のだれでもが対応するようにされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護師の来所時と必要時に情報提供を行い、適切に受診等を行っている		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入院先に情報提供を行い、入院中は担当者の方と情報共有と退院時期等の話し合いを行っている	今年度は、持病の悪化、骨折等で4名が、入院治療となった。いずれも、コロナ禍の為、入院先に訪問しての確認は、出来なかったが、電話で詳細を確認しスムーズな退院対応ができた。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化された時の指針を説明しており、同意書にも署名して頂いている	重度化に際して入所時に、母体法人の事業内容についての説明もあり、家族は、身体状況によって対応施設についての違いも理解しており、系列施設以外へ引き継がれる場合もあるが、ほとんどが、系列施設での連携ができることを安心されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習に参加したり書面での周知を行っている		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を同敷地内の事業所と共同で実施している。その他運営推進会議等で情報提供し体制を築いている	7月末に実施した避難訓練では、自然災害用に作成した避難計画について職員全員に説明し周知を図った。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内の接遇研修に参加している、お世話させて頂いているという気持ちを意識して対応している	研修については、職員が講師となり資料作成し、主体性をもって実施している。習熟度については、各部署責任者が、確認指導を行い、小規模施設ならではの接遇対応の学びができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様のペースに合わせて会話、行動をするように心がけており、主体性を意識したコミュニケーションを取るよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の予定は設定しているが、基本的にはご利用者様の意向や体調等に臨機応変に対応するよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様自身に衣類等を選んで頂いたり、その他、理美容では毛染め等の選択もして頂いている		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会や季節に沿った食事、その他普段から聞き取りで得た情報より、食事やおやつ作りを行う際は準備からご利用者様と一緒にやっている	食事作りや盛り付け、毎週のおやつ作り等、様々な機会を通じて、一部分であっても参加する機会が盛り込まれており、9月15日には敬老会を実施し、巻き寿司、サバ、イナリ等お寿司が喜ばれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各ご利用者様の状態に合わせた形態や量の調整を行い、提供のタイミングなども出来る範囲で個別に対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と就寝前に口腔ケアを勧めており、必要時は一部介助も行っている		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録などにより情報収集を行い、会議等で話し合い実施後に評価を行うなど自立に向けた取り組みを行っている	排泄記録などの活用を図り、対応を工夫することで、入居後約5割の人が、失禁改善やオムツやパットの使用回数は、軽減されてきている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給と適度な運動の実施、必要に応じて下剤を使用し量、種類の調整を行っている		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各ご利用者様の希望を出来るだけ対応できるように余裕を持った入浴予定にしている、その他声掛けの工夫なども行い衛生管理に努めている	なるべく、同性介助や時間変更など、声掛けをして対応できるようにされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には希望に沿って対応を行い、必要時は声掛けし対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬リストをファイリングしており、すぐに確認できるように近くに置いている、また状態に合わせて主治医に相談し服薬の支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や普段の会話、その他ご家族様等より情報収集を行い一人ひとりが楽しく生活できるように支援をしている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍で普段の外出や面会等が中止となっており、今は受診時にご家族様との時間を過ごして頂いている	コロナ禍の為、外出困難な時期を経験し、気分を変える工夫として、音楽療法・園芸等学習療法の取り組み等を実施し、心と体の健康保持の取り組みがなされた。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者には、お金を所持して頂いており支払い時に使用して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様が過ごされているリビングに電話を設置しており希望時等に対応させて頂いており、手紙も希望時に対応している		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には落ち着いた色の家具等を配置しており、設えの物を置いたり季節に合わせたものなどを設置している	環境整備については、午前中の掃除の時間には、ほとんどの利用者が職員と一緒に作業ができており、共有空間の飾りつけについては、自分の作品を飾る満足度と共に、職員は、季節感が感じられるように相談に乗りながら、取り組まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席を気の合った利用者同士にしたり、レクの内容によってスムーズに実施できる環境づくり等の支援を行っている		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前よりご家族様に説明させて頂き、設えの道具等の持参を要請している、その他日々の中で情報収集を行いプライベート空間を意識して支援を行っている	居室の整備では、その日の状況によるが、6名程度の利用者が、職員と一緒に自室の掃除ができており、飾られた写真や思い出の品物などについて会話を楽しまれ、思いや信条に触れる機会となっている。他の居室は、職員が対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	案内表示の設置や椅子などを置き、個別に必要な支援を行っている		

基本情報

事業所番号	2892700093
法人名	社会福祉法人 那珂の郷
事業所名	グループホームこはらの郷
所在地	兵庫県多可郡多可町加美区大袋194-1 電話 0795-20-2218

【情報提供票より】令和 4年 8月 1日事業所記入

(1)組織概要

開設年月日	平成29年 9月 1日		
ユニット数	1	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6人、非常勤 1人、常勤換算 5.9人	

(2)建物概要

建物構造	木造造り
	平屋建て

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	共益費 5,100円 水道光熱費18,300円	
敷 金	200,000円			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無し	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	475 円	昼食	485 円
	夕食	485 円	おやつ	円
または1日当たり円				

(4)利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.3 歳	最低	84 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	多可赤十字病院、松井庄診療所、藤田歯科医院
---------	-----------------------

(様式2(1))

事業所名 グループホームこはるの郷

目標達成計画

作成日 令和4年10月24日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	32	今年度は転倒による事故が多く入院治療に至ったケースもあり、対応を再検討し防止していく必要がある。	転倒事故の予防	・下肢筋力低下防止に向けたメニューの作成と実施 ・環境整備	12カ月
2	49	現在、コロナ過において外出機会が殆ど無く、期間も長くなってきている為、ご利用者様にとって心身共に安定して過ごして頂く環境を充実させる必要がある。	各ご利用者様が役割を持ち、生きがい・やりがいのある生活環境の提供	・生活リハの参加範囲を拡大する(負担にならないよう注意する) ・レクリエーションや各療法については、個別対応を充実させる	12カ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。